

# 大牟田市立駛馬北小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校は世界文化遺産「宮原坑」「三池炭鉱専用鉄道敷跡」を有する居住地域であり、近くには諏訪川が流れ、学習に利用できる学習環境に恵まれた地域である。

ESDに関して、地域素材を教材として吟味し、年間指導計画を作成してきている。また、伝統や文化等の保存・継承にかかわる人を学習の中心に捉え、人とのかかわりを生かした学習を展開してきた。

その結果、伝統や文化等を体験的に学ぶことができ、その価値を理解して、誇りに思う子どもが増えている。しかし、課題意識を連続・発展させながら学習対象に働きかけ、学習したことを通して主体的に自己の生き方を考えようとする姿には、まだ不十分さが見られた。

そこで、平成27年度は、子どもが主体的に伝統や文化等のよさを継承・発展させるための自己の生き方を考えることができるような単元構成の在り方、また、その中核である人とのかかわり方を究明した。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- (1) 1年生「チャレンジ！むかしあそび」 (生活科 11月 9時間)
- (2) 2年生「はやめ北のまちのすてきを見つけよう」 (生活科 10月～11月 19時間)
- (3) 3年生「校区じまんカルタを作ろう」 (総合的な学習の時間 10月～11月 18時間)
- (4) 4年生「諏訪川カップ伝説を広めよう」 (総合的な学習の時間 10月～12月 22時間)
- (5) 5年生「炭鉱の町を伝え隊」 (総合的な学習の時間 10月～12月 20時間)
- (6) 6年生「探ろう！大牟田をつくる人」 (総合的な学習の時間 10月～12月 25時間)

## 3 特徴的な活動事例

< 6年生 総合的な学習の時間「探ろう！大牟田をつくる人」(25時間) >

### (1) 単元目標

- これからも大牟田を継続、発展させるために、自分たちもガイド活動などでかかわろうという意欲をもち、人の思いのつながりが表れた掲示物をつくろうとする。(伝統や文化等にかかわる態度)
- 過去と現在の大牟田にかかわるそれぞれの人物の働きを、役割の関係や街に与える影響で捉え、働きに共通する願いや、それに基づいた今後の大牟田のあり方を考える。(もの見方や考え方)
- それぞれの人の働きを紹介する掲示物の内容について考えたことを説明したり、友だちの考えを聞いて意図を理解したりして、よりよい掲示物の内容を話し合い、決定する。(協同的な学び方)
- 過去の團琢磨の働きや、現在のNPO法人の方の働きなど、大牟田の街は人の願いとそれに基づいた行いによって、現在でも豊かな街であり続けていることを理解する。(伝統や文化等への理解)

### (2) 実践の展開

「調べたい」とであう段階(5時間)

- 團琢磨のことを知ってもらうため、三池炭鉱に関する團琢磨の働きを発信するという単元のめあてをつかむ。
  - ・三池炭鉱に関するこれまでの学習を振り返り、團琢磨と三池炭鉱とのかかわりを考える。
  - ・團琢磨の働きがどれだけ知られているか調べ、團琢磨の働きを発信するという単元のめあてをつかむ。
  - ・團琢磨の働きを伝えるための計画を立てる。

「どうなっているの」を調べる段階(7時間)

- 團琢磨と大牟田のかかわりを発信するために、團琢磨の生涯や三池炭鉱に関する働きを調べ、内容を話し合う。
  - ・團琢磨の生涯や、三池炭鉱への働きを調べる。
  - ・團琢磨について調べたことを基に、團琢磨の働きと大牟田とのかかわりについて整理する。

- ・ 團琢磨の働きと大牟田とのかかわりについて整理したことを話し合い、まとめる。

「なるほど」とわかる段階（4時間）

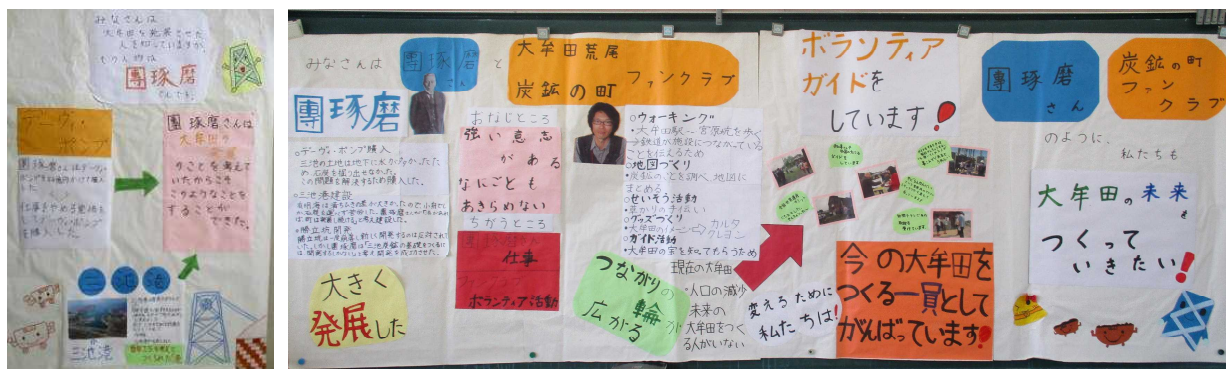
- 現在の牟田を支える人の活動を知るために、牟田の魅力伝える活動に取り組む人の働きを調べる。

- ・ NPO法人「牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ」の中野さんの活動を調べる。
- ・ 中野さんの活動について調べたことを整理し、掲示物に付け加えたい内容を個人で考える。
- ・ 考えたことを基に、中野さんの活動を團琢磨の働きと比較し、掲示物で伝えたいテーマを考える。

「こうしたい」と考える段階（9時間）

- 牟田を支える人を紹介するために、学習したことを生かして掲示物を作成する。

- ・ 掲示物を掲示するそれぞれの場所の位置や広さを調べ、それに基づいた掲示内容などの計画を立てる。
- ・ 計画を基に掲示物を作成し、掲示する。



【作成した掲示物例】

### (3) 成果と課題 ○成果 ●課題

<児童の変容から>

- アンケート調査を行って團琢磨の業績があまり知られていないことを明らかにしたことで、伝えようという活動目標が明確になり、子どもの追究意欲を高めることができた。
- 團琢磨の業績について調べたことを交流する際、私益と公益の視点で團琢磨の行いについて考えさせたことで、牟田全体のことを考えた團琢磨の生き方を明らかにすることができた。
- 中野さんの活動について事前に調べ、インタビューする際に「私は～と思うのですが、中野さんはなぜ～ですか。」と質問させたことで、中野さんの思いを自分の考えと比較しながら聞くことができ、その思いの強さを実感することができた。
- 「こうしたい」と考える段階では、自分たちで決定したテーマ（團琢磨や中野さんの働き等）に基づいて掲示物の内容を考えさせたことで、子どもたちは自分の生活とのかかわりを意識しながら話し合うことができた。
- 「どうなっているの」を調べる段階では、資料を基にした調査活動になり團琢磨の苦悩や喜びといった心情面まで掘り下げて実感させることができなかつた。
- 「なるほど」とわかる段階では、時間軸を中心とした團琢磨と中野さんの思いの共通性の理解が中心となつてしまい、どのように掲示物で表現するかという子ども主体の活動が足りなかつた。

## 4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ 人の行いから知恵、考え、願いに段階的に迫る単元構成を仕組んだことで、子どもは伝統や文化等に込められた願いを理解し、それに基づいて継承・発展の在り方を考えることができた。
- ・ 系統的な年間指導計画を作成したことによって、各学年の発達段階に応じた子どもの資質や能力の高まりが見られた。

○課題

- ・ 自分の体験や理解を自己評価し、理解をより深める活動の充実。